

設立 平成24年 5月15日
開塾 平成24年 9月 8日
発行 令和元年 7月17日
(80号)



[事務局] 〒648-0094
橋本市三石台4-1-15
TEL 0736-38-3669
FAX 0736-38-3680
発行 學塾・中之島事務局

人間学講座
第84講

「本当のことを知れば
生き方が変わる」
池田整治先生



■『塩狩峠』にある原点

愛媛の故郷を離れて、私は十五歳で自衛隊に入りました。仕事には2種類あるかと思えます。自分のための仕事と、

自分のためでもあるが社会のための仕事。私は当時社会の仕事がしたいという思いで自衛隊に入ったのですが、外出の折に人々に囲まれて「税金泥棒」と言われたのです。大変なショックでした。その後防衛大に入学し、たくさんの本を読みました。自衛官は初めに「命を懸けて国民を守ります」と宣誓します。そして任務の達成は自分一人の命だけでなく後に続く部下の命をもかかっています。そのような立場で最も参考になった本とは、実話を元に書かれた曾野綾子著の『塩狩峠』でした。

主人公は二三歳の鉄道員の信夫です。信夫は北海道の鉄道会社勤め、結婚の予定も控えていました。あるとき信夫の乗っている列車が塩狩峠の頂上に差し掛かろうとするとき、車両の連結が外れる事故が起きます。彼は手動のブレーキをかけるが止まらないう急な坂が迫ってくるがそこまで行ってしまうと、乗客もろとも谷底に落ちてしまう。そのとき彼はどうしたか。すぐ飛び降りた。そこで人為的な助けをするのか、軍事的な戦いをするのか。人為的な助けはレスキューなら、お客さんを助けるために声を張り上げて「飛び降りてください！」との呼びかけになります。しかしそれでは全員助けることはできない、と信夫は瞬時に判断したのです。

そこで彼は貨車と貨車の車輪の間に自分の身体を杭として投げ込んだのです。列車は見事に止まり、乗客は全員助かりました。信夫は即死です。ここに

は私の原点があります。それは「人は何のために生きるか」。信夫くんは若くして亡くなりましたが、私は逆に良い人生だったと思うのです。

■地下鉄サリン事件の真実

一九九四年六月松本サリン事件が起こりました。同じ年の七月上九一色村のオウムのサティアンで異臭事件が起こった。両方のサリンを化学部隊に分析させたところ、それら土壌のサリンの成分が一致した。化学物質は指紋と一緒に、分析結果が一致したということは、松本サリン事件はオウムの犯行であることが我々には判っていました。このときにオウムに突入しておれば地下鉄サリン事件は起こらなかったのですが、警察から待ったがかり、捜査に入らなかったのです。

一九九五年三月地下鉄サリン事件が起こります。その被害者の中に私と共にオウムのサティアンの強制捜査に同行するはずだった者もあります。実は地下鉄サリン事件は、捜査員を狙った個人テロです。彼が入院したため、私は自衛官として一人で第7サティアンに入ることになりました。警察では強制捜査に踏み切るための作戦会議が行なわれました。サティアンの中には、ドラム缶700本の薬剤、旧ソ連軍のヘリコプター、そ

の他武器、弾薬がある。もし、彼らが抵抗し、彼らの本来の目的である「日本壊滅」を図ったらどうなるか。何よりも、ドラム缶をヘリに積んで、東京の繁華街に撒けば、1本で100万人が死ぬことになりました。

会議終了後、警察の総指揮官の「機動隊員50人から150人が死ぬかも知れない。でも、我々はその死をもとに



対処するから」との言葉には驚きました。部下がそんなに死ぬことを想定するなどありえない。それで命を懸けている部下との人間関係が成り立たないではないか。唾然としましたが、そのときに肚を決め、「信夫くん」になったのです。国民を殺してはならない。もしものときは腹を斬る覚悟を決めました。

■大和は愛の国

世界を牛耳る支配者が、日本と北朝鮮をうまく使つて、お金を搾り取る体制を作り、日本民族をつぶそうとしています。はびこる社会毒は「化学物質」「放射線」「遺伝子組換え食材」「電磁波」。他国では危険なため禁止されているものや、国民を守るための決まりもありますが、日本はそういった情報は知らされておらず、アメリカで禁止されている薬品も使われている実態です。このままでは、DNAが破壊され、三大で子孫が消えてしまいかねないです。支配者にとつて、日本は目覚めさせていけない国。日本人が変わると世界が変わることにつながるからです。滅びる道と永遠に続く道があります。本来地球は永遠に続く一つの世界です。地球は輪廻転生を通じて、個々の魂が進化する大自然の貴重な星です。私達の国は「大和(やまと)」と書きますが、それは愛の国の原点、神の民ということ。だからこそ支配者は日本のDNAを潰したいと思うのです。いま世界はエゴの人々が支配している。いったんこれを止めねばならない。止めるには天変地異があるかもしれないません。神話には「世界がエゴの社会となつて滅びる前に、一度泥の世界にする。その前に東の島の愛の民が泥の世界へ派遣され、神々とともに使える魂を救いながら本当の愛の世界を再興する」とあります。一度泥の海のようになった中から、もう一度「愛の国」を作っていく。この先は泥の海になろうとも、それもまた人類を駄目にしないための計画のひとつなのです。

(抄録 中川千都子)

□ 講師 池田整治先生

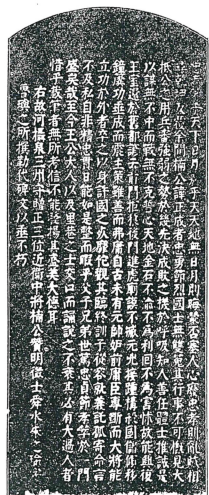
③ 真実を知ったところで「何に使うか」が大切。



人生に忠孝あるは、自然界に日月あるにひとしい、目

る時、その人は孝子となり、臣にして君の恩を思う時、

宮武清寛



「湊川神社にて」

中村 美智留

「楠公さん」と地元住民に親しみをこめて呼ばれる湊川神社。神戸っ子の私の初詣、七五三参り、子どもたちの宮参りも全てここ湊川神社だった。神戸駅北側にゆったりとした広い敷地を持ち、初詣には多くの参拝客と屋台で賑わうその神社については楠木正成という武士が祀られている、という知識しか持っていなかった。そして今回人間学塾中之島の校外学習で、殉節地や墓所、徳川光圀像巡り、権宮司のお話を伺って湊川神社と日本の歴史の大きな関わりを知ることが出来た。

まず最初に驚いたのは、楠木正成が第二次世界大戦終戦までは、正義と忠誠を貫く

ヒーローとして日本国民から絶大な人気だったこと。第二に、それ故に多くの高名な財界人、政治家たちがここを訪れ灯籠を立てたり寄付をしていたこと。また幕末の志士たちが何度も参拝に訪れ、庶民にとっても湊川神社参拝は憧れであったこと。第三にこの湊川神社が明治天皇が創建し、以降神戸の街の繁栄の中心地であったこと。水族館もあったというのは驚きだ。

神戸の地で暮らし神戸を愛し、その繁栄を願っている私としては、これまで湊川神社いや楠公さんの正確な歴史を深く知らなかった事に衝撃を受け少し悲しかった。何故私は湊川神社と楠木正成について学んでこなかったか。その理由として、歴史書は必ずしも真実ではないから。特に古い時代

の人物や事象は時の権力者に都合のいいように書き換えられていたり著者の思惑で捻じ曲げられていたり、正確な事を知ることとはかなり困難である。一部教科書や私が最近読んだ「日本国紀」には大悪党楠木正成と書かれている。そして一番大きな原因は第二次世界大戦以降、日本人が自国や国民を誇りに思わないような教育を受けたから。戦前の日本人なら誰でも知っていた楠木正成ストーリーや、皇居になぜ銅像があるのか。今回の学びをきっかけに地元の遺産を後輩たちや他地域の方に誇りを持って伝えられるようにもう一度勉強し直して、この素晴らしい歴史を持った湊川神社を大切に伝えていきたいと思う。



大楠公御殉節地



湊川神社境内見学



講話 西原秀樹権宮司



《人間学塾・中之島》

■ 第七期「卒塾式」

＊日時 令和元年8月17日(第3土曜日)

＊場所 大阪大学中之島センター 10F

大阪市北区中之島四・三・五三

＊日程 第一部「卒塾式」

第二部「交流会」

◆ 第七期「卒塾文集」寄稿の提出は、

お済でしょうか??

◆ 第八期への継続は、

お決めくださいましたか??

《お薦め書籍》

まんが『てんびんの詩』

竹本幸之祐 原作 大野志信(漫画)



出版社 PHP 研究所
頒価 一六二〇円(税込)
ISBN 978-4-569-09092-2

鍵山秀三郎先生が制作・企画・資金提供を手がけ映像化された近江商人の物語を、漫画化されました。時は大正末期。大商家の長男・大作は、優秀な成績で小学校を卒業。祝いの言葉とともに父から贈られた包みの中身は、鍋の蓋だった。父は、明日からそれを行商して売ってこいと言う。売れなければ、店を継がせることはできないと。何不自由なく育ってきた少年に初めて与えられた試験だった。途方に暮れながらも、母親も、親戚も、知人も頼れない。鍋蓋は売れぬまま、3か月が過ぎる。苦難の末、ようやく商人の、そして商いの魂を知った。涙の先に大作が見たものは?

《「淀川掃除に学ぶ会」

短信 志村隆夫塾生》

七月七日、朝八時から約25名が参りました。天気が良く日陰が無いので、とても暑い一時間半でした。成果はゴミ袋13個と空き缶、ペットボトルなど2個でした。

お掃除の始めに、代表から天分塾にも参加されていた、東様がご逝去されたとの報告が有りました。東様は掃除の会にはとても貢献して頂きました。約10年間にわたり毎回 お茶やコーヒー パン 果物などを用意して頂きました。ご冥福をお祈りして、全員で感謝とご冥福をお祈りして、黙祷を捧げました。



《芳信抄》

柴田久美子様(岡山市津高)

「中之島ニュース」ありがとうございます。映画「みとりし」が完成、9月13日より有楽町スバル座で公開されます。親孝行をテーマに創りました。武士道の本質でもあります。

私の人生が少しでもどこかで役立ってくれるならばと願っています。これまで生かしていただいたご恩返しができるならばうれしいことです。お礼申し上げます。お世話ご苦労様です。

山下武彦様(埼玉県児玉郡)
第八期募集案内、その講師陣の充実ぶりに感銘し

ました。読書会の記録によりますと、森信三先生の教えに学ぶ人が多く居られ、関西地区以遠の方々も多く学ばれていることが拝察されました。それにしても昨今の幼児虐待や痛ましい交通事故等の連鎖については、日本人の心をどう捉えたらよいのでしょうか。教育の問題ででしょうか。

大出雅一様(埼玉県川越市)

「武士」と「愛すること」は結びつかないのではないかと、これが私の固定観念としてありました。「十七条憲法」や「御成敗式目」にも武士道は生きている、改めて日本民族のDNAを認識した次第です。

寺田一清先生の不二登拜は、不尽先生に会いに行かれるお心もあつたやに伺っております。

加藤秀夫様(宮城県名取市)

「武士道とは愛することと見つけた」石川真理子先生の講話録ありがたく拝読致しました。「十七条憲法」「御成敗式目」を原点とした日本人の精神に還ることが求められていますね。

桂 誠司様(愛媛県四国中央市)

新渡戸稲造著の『武士道』は、何度も読みました。でも、まだ僕には難解です。寺田先生の仰る「読み込む」ほどには至っておりません。石川真理子先生の講話を頭において、また読んでみます。

坂部智一様(愛知県豊田市)

石川真理子先生の抄録拝読致しました。武士道の原点、日本人の原点が、「十七条憲法」にあること、新しく教えて頂きました。日本人の心の誇りと思い実践します。武士の始まりと、終わりに興味が湧きましたし、鎌倉時代の「御成敗式目」教科書で読んだ記憶がいります。人格を求められていること、教えて頂きました。

稲垣孝志様(愛知県春日井市)

四月我那覇産のお話しに引き込まれました。テレビ・新聞ばかり見ていると大きく間違ふなど感じます。私が本物を見る目をもたなければ!!

鍵山秀三郎先生からは、「中之島ニュース」をお読みくださっていること、体調すぐれないなりに毎回お電話をくださり、感謝一杯です。早期のご回復を願っております!!(眞)